

音楽科（一般）

音楽科（一般）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。
- 5 表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音楽を形づくっている要素を要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現すること及び音楽のよさや美しさを味わうことを通して、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

音楽科（一般）

調査研究の結果の概要

■教育出版「中学音楽1 音楽のおくりもの」「中学音楽2・3上 音楽のおくりもの」 「中学音楽2・3下 音楽のおくりもの」

巻頭の「学習MAP」において、領域・分野ごとに対応する教材を分類し、育成を目指す資質・能力の関係性を示すことで、見通しをもってバランスよく学力を身に付けられるようになっている。また、「学習の進め方」では、〔共通事項〕を軸にした学習の進め方を示し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を振り返りながら、学習が進められるよう工夫されている。

また、巻頭には、音楽界の著名人が「これまでの人生で身に付けてきた音楽的な見方・考え方を働かせることが、生きていく中でどのように活かされるか」を、様々な言葉で語り、学習への入り口をスムーズにするように工夫されている。

それぞれの教材の始めのページには、歌詞の内容と関連する我が国の自然や四季の美しさを表現した写真を使用しており、生徒が歌詞をイメージしやすく、豊かな知覚・感受につながるように工夫されている。

表現領域と鑑賞領域の学習活動については、鑑賞領域の学習後に表現領域の学習を関連付けて学習できるように配列されており、特に「日本の民謡」では、リズムや旋律を表す口唱歌を楽しみながら体験する表現領域の歌唱と、特徴を捉える等の鑑賞領域を合わせて学習した後、全ての都道府県の音楽を掲載することで応用的な学習ができるようになっており、さらに民謡の音階を用いて表現領域の創作学習ができるように工夫がされている。

また、1年生で日本とアジア各国の音楽を比較し、2・3年生下では「ポピュラー音楽」の視点から、様々な国の音楽文化のルーツを学習できるように配慮されている。

■教育芸術社「中学生の音楽 1」「中学生の音楽 2・3上」「中学生の音楽 2・3下」

巻頭において、育成すべき3つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示することにより、生徒がどの教材でどのような学力を身に付けることができるのかが一目で分かるように工夫されている。それに加えて、各教材のページでも「学習目標」「具体的な学習活動」「音楽を形づくっている要素」「〔共通事項〕」に示されている用語や記号などを示し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう、優れた工夫がされている。

各教材に、音楽を形づくっている要素を窓口とした「問いかけ」を「考えたいポイント」として示すことで、生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせて言語活動を通して考えを深めることができるように配慮されている。

共通教材の「学びのコンパス」では、知覚と感受との関わりについて考える場面が設けられ、それを『どのように表現したいか』という思いにつなげることで、表現の工夫を考えることができるようになっており、優れている。

鑑賞教材の雅楽「越天楽」では、箏篋（ひちりき）の歌唱を歌って旋律の特徴を感じ取る学習や歌舞伎の長唄を実際に唄ったり能の謡を体験したりする学習を通して、我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、口唱歌で歌ったり、リズムを打ったり、楽器の音色から感じ取ったり

するなど、表現領域と鑑賞領域の学習活動を関連付けた工夫がされている。また、「日本の民謡」では、様々な種類の民謡を鑑賞したあとに、すべての都道府県の音楽を掲載した「郷土に伝わる民謡を調べよう」へとつなげることで、生徒が歌うことと、聴くことどちらの学習活動も行えるよう工夫されており、優れている。

全ての学年で、我が国や郷土の伝統音楽についてや、同世代の中学生の取組について知ることができるように掲載されており、教材の充実だけでなく、3年間で系統立てて学習に取り組み、伝統音楽を受け継ぐことの大切さも理解できるよう工夫されている。また、系統立てて発展的に諸外国の音楽文化が学習できるように工夫されており、優れている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		教育出版	教育芸術社
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。	1 指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)と[共通事項]の適切な工夫	○	◎	
		2 楽典や鑑賞資料に関する記述	○	◎	
		3 発声や歌い方、楽器に関する記述	○	○	
2	習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1 指導事項と[共通事項]の関連	○	◎	
		2 問題解決的な学習や言語活動の充実の工夫	○	○	
		3 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた工夫	○	◎	
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫	○	◎	
		2 発展的な学習活動につながる工夫	○	○	
		3 ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	◎	
4	日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資力・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。	1 知覚・感受したことと表現及び鑑賞活動との関連	○	◎	
		2 音楽的な見方・考え方を働かせやすい教材の充実	○	◎	
		3 生活や社会の中での音楽の働きや音楽文化との関わりの工夫	○	○	
5	表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音楽を形づくっている要素を要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現すること及び音楽のよさや美しさを味わうことを通して、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。	1 表現領域と鑑賞領域の適切な関連	○	◎	
		2 我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に関わる教材の充実	○	◎	
		3 音楽の多様性や音楽文化についての理解を深めるための工夫	○	○	
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。	1 人権教育の推進	○	○	
		2 道徳教育の推進	○	○	
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。	1 題材構成の系統性・発展性	○	○	
		2 他教科や教育課題等との関連	○	◎	
		3 他校種との接続	○	○	
		4 家庭・地域との連携	○	○	
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	△	○	
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	

【音楽（一般）】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	17 教出	27 教芸
	<p>○巻頭の「学習MAP」において、領域・分野ごとに対応する教材を分類し、育成を目指す資質・能力の関係性を示すことで、見通しをもってバランスよく学力を身に付けられるようになっている。また、「学習の進め方」では、「共通事項」を軸にした学習の進め方を示し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を振り返りながら、学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に音楽の諸記号についてまとめられた楽典の折込みページが掲載され、基礎的・基本的な知識及び技能が定着しやすいよう工夫されている。また、各題材での新出の記号や音符に関しては、ページの右下に巻末の楽典のページ番号と共に記載され、知識及び技能が定着するための工夫がされている。また、音楽を形づくっている要素に着目して学習を振り返る「どんな特徴があるかな？」のページを設け、工夫されている。</p> <p>○「Sing!Sing!」のページにおいて、歌うための準備として姿勢や歌う前のストレッチについて掲載することで、安定して伸びやかな歌声を出すための発声の技能が身に付くように工夫されている。また、「指揮をしてみよう」のページでは、教材曲である「ぜんぶ」を用いて、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に向けて学習を進めながら、実感をもって豊かな音楽表現につなぐことができるよう配慮されている。題材に関連する楽器や演奏時の写真を掲載しており、巻末の折込みページにまとめて掲載されるなど工夫がされている。</p>	<p>○巻頭において、育成すべき3つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示することにより、生徒がどの教材でどのような学力を身に付けることができるのかが一目で分かるように工夫されている。それに加えて、各教材のページでも「学習目標」「具体的な学習活動」「音楽を形づくっている要素」「[共通事項]」に示されている用語や記号などを示し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう、優れた工夫がされている。巻頭ページで学習の見通しをもたせ、巻末に3年間の音楽の学習を振り返る「音楽の学びを振り返ろう」のページを設けることで、主体的な学びの実現につながるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○巻末に音楽の諸記号についてまとめられたページが掲載され、基礎的・基本的な知識及び技能が定着しやすいよう工夫されている。また、各題材での新出の記号や音符に関しては、ページの右上に巻末の楽典ページの番号と主に記載され、知識及び技能が定着するための工夫がされている。また、「音楽を形づくっている要素」のページでは、記号だけでなく、楽譜や図等を用いて具体的に示されており、生徒が習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用しやすいよう、優れた工夫がされている。</p> <p>○歌唱領域の「My Voice」のページでは、生徒の発達段階に応じた歌唱表現の工夫と共に、豊かな響きのある声で歌うために必要な知識及び技能について掲載されており、段階的に技能が身に付くように配慮されている。また、声の出る仕組みや変声期について記載し、発声や歌い方の技能がより確実に身に付くように工夫されている。題材に関連する楽器や演奏時の写真を掲載したりするなどして、楽曲と楽器を関連付けて学習することができるよう、工夫がされている。</p>

【選定の観点2】

習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○巻頭の「学習MAP」において、〔共通事項〕を手がかりに学習を進めるための「学習の進め方」が示され、〔共通事項〕を中心とした題材の比較や活動及び題材の学びを深めるためのポイントが掲載されている。また、各教材の題名の下に記載された学習の方向性を示す文は、指導事項と〔共通事項〕を関連させた文言となっており、工夫されている。</p> <p>○先生を表したキャラクターによる「歌い比べてみましょう。」「気づいたことを話し合ってみましょう。」「感じ取ったことをまとめておきましょう。」等の指示や、「話し合おう」のコーナーでの「工夫しながら歌ってみよう」「自分にとって、見どころ、聴きどころだと思う場面を選び、その魅力を述べてみよう。」等の指示によって、活動に関する手立てが示されていることで、生徒が習得した知識及び技能を活用しながら、問題発見・解決的な学習や言語活動に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○学習目標に対して、複数の教材を比較して学習を深める教材を設定し、「比べてみよう」という記載で示すことにより、多面的・多角的に考察する活動を設けたり、歌唱の領域では「Active!」のページに、フレーズについての知識を整理し、それを生かして表現の工夫について考えを記入する欄を設けて学習の道筋を示すことで、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう配慮されている。</p>	<p>○各学年の教材に設けられている「学びのコンパス」は、指導事項と関連した学習活動となっており、学習の過程には「注目するポイント」として〔共通事項〕が示され、指導事項と〔共通事項〕を関連させながら、習得した知識及び技能を活用できるよう、優れた工夫がされている。</p> <p>○各教材に、音楽を形づくっている要素を窓口とした「問いかけ」を「考えたいポイント」として示すことで、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組み、問題発見・課題解決的な学習を進められるよう、また、音楽的な見方・考え方を働かせて言語活動を通して考えを深めたりできるよう、工夫がされている。</p> <p>○キャラクターの吹き出しにより、知覚・感受したことを基に思考・判断・表現を行うためのヒントや、多面的・多角的に考察するために有効な手立てが示されており、友達と意見を交換するなどの言語活動を通して学びを深めることができるよう優れた工夫がされている。また、「学びのコンパス」では、知識及び技能を活用し、思考・判断・表現へつなげる過程を明示し、生徒が習得した知識及び技能を活用して主体的に学習活動に取り組み、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう配慮されている。</p>

【選定の観点3-1】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○歌詞に描かれている情景や楽曲の背景などの解説、作詞者や作曲者の言葉、他の芸術との関わり等、楽曲に関わる多様な情報を掲載することにより、生徒が楽曲に関心をもち理解を深めることにつなげて、探究意欲を高めるための工夫がされている。また、巻頭の演奏者からのメッセージを掲載することで、生徒が楽曲への理解を深め、他者の意見を聞く活動等を通して学習を進められるなど、生徒が主体的・対話的に学ぶための工夫がされている。また、「作者の思いに触れる」のコーナーにおいて、作曲された当時の背景に迫る作曲者の言葉を紹介しており、生徒の探究的な学びの手立てとなるよう工夫がされている。</p>	<p>○「学びのコンパス」では、主体的・対話的で深い学びとなるように学習の手順が示されており、生徒が自分の考えを整理しながら学習を進めることができる。また、巻頭の「音楽ってなんだろう？」のページでは「自分の世界を広げるもの」という切り口で音楽とそれに関わる人物や言葉を美しい写真と共に紹介することで、音楽との向き合い方を示しており、生徒が音楽について新たな発見ができるよう工夫されており、優れている。</p>

【選定の観点3-2】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○創作の領域の、「もっと楽しもう」のコーナーでは、発展的な課題を提案したり、合唱曲「ぜんぶ」では指揮の仕方を学習することでより歌唱の表現力を高めることができるなど、学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫がされている。</p> <p>○「コンピュータで表現しよう」や「コンピュータと音楽」のページでは、創作・歌唱・演奏・鑑賞のそれぞれの学習での、ICT機器の活用方法を示し、生徒や教員のイラストの吹き出しで利用を促す等、個別最適な学びを発展させるよう工夫されている。</p>	<p>○「Challenge!!」のコーナーで、歌唱教材や鑑賞教材に関連のある楽曲などと聴き比べてみようという表記があり、創作領域では作品に対して「和音のリズムを変化させてもいいね。」と発展的な課題を提案し、学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫がされている。</p> <p>○「著作権」の学習ページでは、情報モラルを理解した上でのICT機器の正しい利用方法を促している。また、「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」のページにおいて、インターネットを活用し、様々な郷土芸能を学習するように促したり、各学年の「生活や社会の中の音や音楽」のページで、ICT機器を活用することで多様な音楽と様々な方法で関わりをもつことができることを示している。さらに、各学年の「音楽の学びを振り返ろう」のページでは、自分の考えた楽曲のよさを、ICT機器を使って調べ、音楽を聴き、プレゼンソフトを用いて発表する学習方法を促しているなど、複数のページにおいて、ICT機器を活用した個別最適な学びを発展させる優れた工夫がされている。</p>

【選定の観点4-1】

日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○歌唱共通教材では、歌詞の背景を理解しやすくするために、関連する写真やイラストを掲載している。特にそれぞれの教材の始めのページには、歌詞の内容と関連する我が国の自然や四季の美しさを表現した写真を使用しており、生徒が歌詞をイメージしやすく、豊かな知覚・感受につながるように工夫されている。また、鑑賞教材においても、題材に関する写真を掲載することで、楽曲の背景を理解してイメージを膨らませて学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○写真やイラストを掲載することで、生徒が、歌唱共通教材の歌詞の背景や歌詞の内容と関連することを連想することができ、鑑賞教材では、楽曲の背景を理解してイメージを膨らませることができ、豊かな知覚・感受につながるように工夫されている。また、共通教材の「学びのコンパス」では、知覚と感受との関わりについて考える場面が設けられ、それを『どのように表現したいか』という思いや意図につなげ、表現の工夫を考えることができるように工夫されており、優れている。</p>

【選定の観点4-2】

日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、日常生活や社会、伝統や文化等と関連付けるなど、音楽的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○巻頭には、音楽界の著名人が「これまでの人生で身に付けてきた音楽的な見方・考え方を働かせることが、生きていく中でどのように活かされるか」を、様々な言葉で語り、学習への入り口をスムーズにするように工夫されている。また、図や写真に、状況を表す注釈を入れることで、視覚的情報からも音楽的な見方・考え方を働かせやすくするように工夫されている。</p> <p>○「私たちのくらしと音楽」で音楽著作権を取り上げたり、音楽を守っていく事の価値について考えたり、「劇場・音楽堂へ行こう！」ではデジタルデバイスでは感じられない、生の音や音楽を聴く施設の紹介をすることで、生徒が音楽と自分達の生活との関わりを意識して学習する工夫がされている。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチ活動を取り上げ、音楽を通しての社会貢献について考えられる工夫がされている。</p>	<p>○各教材に、音楽を形づくっている要素を窓口とした「問いかけ」を「考えたいポイント」として示すことで、生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせて言語活動を通して考えを深めることができ、また、歌唱共通教材のめあても、歌詞や曲想に応じて〔共通事項〕を軸に楽曲ごとに設定されており、生徒が表現を深める学習活動に取り組みやすい。さらに、図形楽譜やイラストなどを用いて、音楽の構造が捉えられる図表などを記載して、教材の充実を図り、音楽的な見方・考え方を働かせた学習が進められるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○「生活や社会の中の音や音楽」では、人と人をつなぐ音楽や、音楽に関わる仕事について取り上げ、社会の中で音や音楽の果たす役割や、自分と音楽との関わりについて考えることができる。また、「社会を映し出す音楽」のページでは、世界中にある多様な音楽やその背景にある人々の思いを紹介し、伝統や音楽文化との関りについて考えることで、音楽的な見方・考え方を広げ深められるように工夫されている。</p>

【選定の観点5-1】

表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音楽を形づくっている要素を要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現すること及び音楽のよさや美しさを味わうことを通して、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○鑑賞教材の「雅楽」や「能」「歌舞伎」では、鑑賞領域の学習後に表現領域の学習を関連付けて学習できるように配列されており、また、「日本の民謡」では、表現領域の歌唱と鑑賞領域を合わせて学習した後、全ての都道府県の音楽を掲載し応用学習ができ、さらに民謡の音階を用いて表現領域の創作学習ができるように工夫がされている。</p>	<p>○鑑賞教材の雅楽「越天楽」では、箏篋（ひちりき）の歌唱を歌って旋律の特徴を感じ取る学習や歌舞伎の長唄を実際に唄ったり能の謡を体験したりする学習を通して、我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、口唱歌で歌ったり、リズムを打ったり、楽器の音色から感じ取ったりするなど、表現領域と鑑賞領域の学習活動を関連付けた工夫がされている。また、「日本の民謡」では、様々な種類の民謡を鑑賞した後に、全ての都道府県の音楽を掲載した「郷土に伝わる民謡を調べよう」へとつながり、生徒が歌うことと聴くことの、どちらの学習活動も行えるよう工夫されており、優れている。</p>

【選定の観点5-2】

表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられ、音楽を形づくっている要素を要として、生徒が音楽の多様性を理解したり、創意工夫しながら音楽を表現すること及び音楽のよさや美しさを味わうことを通して、和楽器を含めた我が国や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽文化に親しみ、音楽を愛好する心情、豊かな情操等を育めるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○民謡などに見られるコブシや産み字などの旋律装飾、リズムや旋律を表す口唱歌を楽しみながら体験できるようにしたり、それらを民謡譜例などで表したりすることで、生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみやすいようになっている。また、1年生では「声による様々な表現」として、日本とアジア各国の音楽を比較したり、2・3年生下では「ポピュラー音楽」の視点から、様々な国の音楽文化のルーツを学習できるように工夫されている。</p> <p>○各学年の巻頭ページに、各界で活躍する方から中学生へのメッセージが掲載され、「音楽家として」「伝統を未来へつなぐ意義や指名」「音楽のチカラ」について語られている中から、音楽の多様性や音楽文化について理解を深めることができ、音楽を愛好する心情や豊かな情操等を育めるように工夫されている。</p>	<p>○我が国や郷土の伝統音楽について、1年生「日本音楽入門」では、年表を用いることで視覚的に日本の伝統音楽の発展を感じ取ることができ、2・3年生上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」において全ての都道府県の祭りや芸能を日本地図上に分かりやすく掲載するとともに、「ユネスコ無形文化遺産」に指定されている郷土芸能についての紹介がされており、生徒が自分の住む地域の文化に親しむことができる。また、2・3年生下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」では、同世代の中学生の取組について知ることによって伝統音楽を受け継ぐことの大切さが理解でき、教材の充実だけでなく、3年間を系統立てて学習に取り組みするよう工夫されている。さらに、1年生「アジアの諸民族の音楽」2・3年生上「世界の（声の音色に特徴がある）諸民族の音楽」2・3年生下「世界の（楽器の音色に特徴がある）諸民族の音楽」と、系統立てて発展的に諸外国の音楽文化が学習できるように工夫されており、優れている。</p> <p>○各学年の巻頭ページに、各界で活躍する方から中学生へのメッセージとして、音楽や芸術と自身がどのように関わってきたかが語られていたり、「音楽って何だろう？」として、著名人による言葉が掲載されているなど、音楽の多様性や音楽文化についての理解を深めることができ、音楽を愛好する心情や豊かな情操等を育めるよう工夫されている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○SDG sとの関連として、パートナーシップや平和と公正、平等の拡充を主題とした歌唱教材を取り上げるなど、国際理解教育、人権教育等に配慮されている。また、国歌「君が代」の挿絵として、オリンピック・パラリンピックやワールドカップの場において、国歌が歌われている写真が掲載されている。その中には、日本人選手と他国の子どもが一緒に写った写真もあり、国際理解教育や人権教育等に配慮されている。</p> <p>○我が国の自然や文化、日本語の美しさを感じ取ることができる楽曲や、巻末に「国歌」を歌詞の大意と共に掲載することなどにより、生徒の我が国の音楽文化への理解促進や、音楽を愛好する心情、美しいものや崇高なものを尊重する態度の育成など、道徳教育との関連を重視して学習が進められるよう工夫されている。</p>	<p>○音楽に関する知的財産権やインターネット上の音楽利用について、著作者を尊重する気持ちを育てるとともに、「なゼルールをまもらなければいけないのか」という視点で分かりやすく説明されている。また、国歌「君が代」の挿絵として、オリンピック・パラリンピックやワールドカップの場において、国歌が歌われている写真が掲載されている。その中には、日本人選手と他国の子どもが一緒に写った写真もあり、国際理解教育や人権教育等に配慮されている。</p> <p>○[希望と勇気、克己強い意志][友情、信頼][自然愛護][よりよく生きる喜び][国際理解]など、様々な道徳教育に対する配慮がなされた教材が複数掲載されている。それぞれのページには、作曲家からのメッセージや著名人の言葉、歌詞の内容に関する道徳心を考えることができる事柄が掲載されており、その文面から道徳性を身に付けられるよう工夫されている。</p>

【選定の観点7】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○歌唱教材において、生徒の発達段階を踏まえ、斉唱から混声合唱へスムーズに進めるよう、中学校3年間を通じた系統性や発展性を踏まえた学習展開ができるよう工夫されている。</p> <p>○「音楽著作権について」では、技術分野の著作権の学習と、「DO-RE-MIなどの歌唱曲」では、英語の歌詞による歌唱を通して英語の学習と、「歴史ナビ」や「作曲家の生きた時代」では、その楽曲や伝統音楽がどの時代に誕生し発展したものなのか一目で分かり社会の学習と関わらせることができるなど、複数の教材において他教科の学習と関連が図られており、工夫されている。</p> <p>○1年生の全ての題材で、小学校高学年との領域・分野ごとの系統を意識した教材・楽曲が選択されるとともに、中学校3年間を見通した構成とすることにより、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチについて紹介し、生徒が地域の人と音楽のつながりや家族も含めた音楽とのつながりを意識して学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○学年を通して学習が段階的に進められるように、また生徒の音域や変声期などの心身の発達段階を考慮して音域や難易度が上下の学年の学習とスムーズにつながるよう、中学校3年間を通じた系統性や発展性を踏まえた学習展開ができるよう工夫されている。</p> <p>○「著作権についての学習」、「英語の歌唱曲」、「俳句を用いた旋律の創作」、「日本の音楽と時代背景との関わり」、「曲の特徴と風土との関わり」など複数の教材において他教科の学習と関連が図られており、さらにその教材が3年間を通して毎年学習できるように、優れた工夫がされている。</p> <p>○全ての教材で小学校との領域・分野ごとの系統性を意識して、生徒の発達段階に応じた教材・楽曲が掲載されている。また、中学校3年間を見通し、発達段階に応じて段階的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」「生活や社会の中の音や音楽」「ポピュラー音楽」など複数のページにおいて、世代を超えて親しまれてきた音楽を国内外問わず紹介することで、生徒が地域の人と音楽のつながりや家族も含めた音楽とのつながりを意識して学習できるよう工夫されている。</p>

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○楽譜や文字は適切な大きさと、写真や図のレイアウトや色使いが工夫されており、生徒が読みやすいように配慮されているが、フレーズの途中で楽譜（ページ）をめくる必要があるなど、楽曲のまとまりが見渡しにくい配置となっている楽譜もあり、生徒にとってやや不便である。</p> <p>○生徒の特性に応じて、判読性、視認性の高い配色とレイアウトが行われるとともに、文字にはユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいように工夫されている。</p> <p>○表紙は堅牢で手触りが良く、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○環境にやさしい再生紙と植物油インキが使用されている。</p>	<p>○楽譜や文字は適切な大きさと、写真や図のレイアウトや色使いが工夫されており、生徒が読みやすいように配慮されている。また、楽譜に集中できるよう周辺の配色に配慮し、フレーズのまとまりが見渡せるように楽譜を配置するなど、生徒が見通しをもって学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○専門家の助言を受け、全ての紙面、図版、イラストについて、識別しやすい色の組み合わせを選ぶだけでなく、境界を白い線で示すなど、視認性を高めるために様々な配慮がされているとともに、タイトルや文章だけでなく楽譜中の歌詞も含めてユニバーサルデザインフォント（UD書体）が大部分に使用され、生徒が学びやすいように工夫がされている。</p> <p>○表紙に、抗菌効果のある加工を施している。また、表紙は堅牢で開きやすく、丈夫で長持ちする「アジロ製本様式」を採用し、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用され、SDGsに配慮した印刷方法がとられている。</p>